

事項	青森県内で初めて確認されたリンゴ葉巻萎縮病の特徴		
ねらい	これまで苦土欠乏症と類似しているものの、葉の黄化症状や発生部位などから原因不明とされてきた障害樹の一部は、リンゴ葉巻萎縮病によるものであることが明らかとなったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 障害樹の特徴</p> <p>(1) 主枝や垂主枝等の大枝単位で発病し、それら新梢の生育は極端に悪い。</p> <p>(2) 新梢葉は裏側に湾曲する葉巻症状を呈して萎縮し、黄化や褐色斑点が生じるほか、葉縁から黄褐色～赤褐色を呈する症状もみられる。</p> <p>(3) 障害樹にはいずれも露出した根部に大きな傷があり、損傷部の木質部には腐朽がみられる。</p> <p>(4) 腐朽部位には灰白色～灰色の菌塊がパッチ状に形成される。</p> <p>(5) 菌塊にはジグザグ状に伸びた分生子形成細胞や無色、類球形～倒卵形の分生子が形成される。</p> <p>2 原因</p> <p>木材腐朽菌の一種、<i>Geniculosporium</i> sp.によるリンゴ葉巻萎縮病である。</p> <p>3 障害樹の診断</p> <p>葉の症状は苦土欠乏による生理障害と類似しているが、以下の点で区別できる。</p> <p>(1) 葉が裏側に湾曲する。</p> <p>(2) 露出した根部や地際部に付傷部位がある。</p> <p>(3) 付傷部周辺に灰白色～灰色の菌塊がみられる。</p> <p>4 防除対策</p> <p>(1) 防除剤</p> <p>本病の防除に有効な登録薬剤はない。</p> <p>(2) 事前対策</p> <p>病原菌は主に露出した根部の付傷部や主幹の地際部等の傷から感染するので、除草等の栽培管理の際、樹体に傷を付けない。樹体を傷つけた場合は、直ちに塗布剤（バッチレート）を塗って傷口のゆ合促進を図る。</p> <p>(3) 事後対策</p> <p>障害樹は伝染源となるので、伐採・伐根して処分する。</p>		
期待される効果	リンゴ葉巻萎縮病の早期発見が可能となり、その後の被害拡大を防止できる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成23年3月1日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)を確認すること。</p> <p>3 本病の発生は秋田県、長野県でも確認されている。</p>		
問い合わせ先 (電話番号)	りんご研究所 病虫部 (0172-52-2331)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成22年度 試験研究成績概要集(りんご研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 裏側に湾曲・黄化した障害樹の新梢葉（平成22年7月9日撮影）



写真2 葉縁が黄褐色～赤褐色を呈した新梢葉（平成22年7月9日撮影）



写真3 発病した主枝(左)と健全な主枝(右)（平成22年7月9日撮影）



写真4 乗用草刈り機で傷ついた根部（平成22年11月11日撮影）



写真5 腐朽部位に生じた灰色パッチ状の菌塊（平成22年10月19日撮影）



写真6 病原菌 *Geniculosporium* sp. の分生子形成細胞と分生子